

# 『事業名:福島発「復興知」の総合化による食と農の教育研究拠点の構築』

## 2019年度事業の成果概要

**福島大学 連携市町村:川内村・南相馬市・飯舘村・大熊町**  
**現地拠点 :双葉郡川内村上川内早渡11-24 川内村役場内 ほか**

### 事業のポイント

震災から10年が迫る中、復興事業の見直しが進み、復興支援活動・研究の規模・多様性が急速に失われつつある。本事業は福島大学が“扇の要”となり、全国の大学と連携し、これまでに確立されてきた『復興知』の収集・整理を経て、その総合化による食と農の教育研究拠点を構築を目指す。ここで体系化する「復興知」は、福島大学の学生だけでなく、被災者・復興の実務者・全国の大学生に還元できるスキームとして構築し、食と農、ひいては福島の復興に資する人材育成を持続可能なものとしてゆく。



復興農学準備会ホームページ

### 2019年度の取り組み内容

- ①「復興農学有識者会議」を推進し、シンポジウム『浜通り地域における大学等の「復興知」事業の展開と社会実装』を開催した。
- ②同会議で「復興農学会」の発足の必要性を確認し、「復興農学会準備会」および同会のホームページを立ち上げ、学会活動の広報・参加の呼びかけを開始した。
- ③既往の復興支援研究の事例収集・整理・分析に着手するとともに、大学間の研究・教育・地域貢献面での連携に関する討議を始めた。
- ④復興支援をしてきた研究者の協力を得て、『復興知』の総合化を図る、  
1)福島フォーラム、2)現地ツアー、3)出前講義、4)先端技術体験、に着手し、復興農学のニーズとその体系化に向けた課題を把握した。
- ⑤ハイパースペクトルカメラによる水田土壌の地質・化学性の評価法を試行し、イネのセシウム吸収リスクの評価と営農再開・指導のあり方を検討し始めた。



学長・役員との討議

### 取り組みによって得られた成果

- ①既往の復興支援研究の情報収集・課題抽出を行い、復興農学の課題を検討した。  
☞①コメの食味評価・向上によるブランド化、②コメのセシウム吸収リスク評価と安全性認証、③発酵醸造などを核とした米加工による6次産業化、を重点課題とし、米を事例に生産・流通・加工までの復興農学の体系を形成する視座を得た。
- ②ハイパースペクトルカメラによるコメのセシウム吸収リスクの評価の事例を蓄積。  
☞カリウム肥料による低減対策、全量全袋検査の合理化への戦略を検討。
- ③福島大を核とした研究者・実務家のネットワーク化・相互連携の促進、および国内外大学の食と農の教育研究拠点のあり方検討  
☞食農学類の専門教育と復興農学や復興知の接続を検討／大学間連携による共同教育授業の可能性を検討／「国際教育研究拠点」構想への貢献を検討

### I. 浜通り市町村等における大学や研究機関と連携した教育研究活動の取り組み

#### ○「復興農学会準備会」

- 1)「復興農学準備会」の推進
- ※「復興農学有識者会議」の推進を含む



#### ○復興農学研究会

- 1)福島フォーラム
- 2)被災地ツアー
- 3)出前授業
- 4)先端技術体験



#### ○学部専門教育・大学院教育への反映

- 1)実践型教育プログラム
- 2)大学間の共同授業開講(単位互換)の検討



### 【教育研究】

### 【復興支援・実践】

#### ○復興支援研究(重点課題)

- 1)コメの食味評価
- 2)水稲のセシウム吸収リスク評価と安全対策
- 3)コメの食品加工を踏まえた経営モデルの構築



### II 浜通り市町村等における教育研究活動の長期的継続・拡大を目指す取り組み